

自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800799		
法人名	社会福祉法人 恵寿会		
事業所名	グループホーム グリーンヒル みふね		
所在地	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームグリーンヒルみふねは、ベテラン職員が、7割を占めており、家事支援、歩行訓練など、利用者それぞれの援助目標を立て、利用者と共に、毎日に評価を行っている。利用者の状態に応じて、援助目標の見直しも行っている。又ベテラン職員より、人材育成として、介護技術、調理、おもてなしなど、その技術を、若い職員、経験の浅い職員に指導している。地域に向けて、運営推進会議の開催や、木倉祭りを始め、地域行事に出向き地域の活動に参加し又、地域の方からもボランティアとしてGHの行事に参加され、信頼関係を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である特養の一角を占めるホームでは、生活拠点と離れた立地ではあるが、自然の中でゆっくりとした生活を支援している。今年度は「高い志で九州ナンバーワンのグループホームを目指し、最高の快護(快い介護)」をスローガンとして全職員が心一つにして臨んでいる。地域の中でもホームの持つ機能をフルに発揮し、施設長を中心として組織運営の充実や重度化(平均介護度4)した中でも輝いた瞬間を支援している。園児との動物園への外出や保育園の運動会には入居者の出番も作られ、地域住民との茶話会や残存能力や生活歴を生かしながらの日常生活は自信回復や満足感に繋げており、理念である「共に生きる、明るく、楽しく、優しく」をまさに実践している。日々の機能訓練により車椅子から介助により立位歩行に改善させる等職員の専門職としての高いケアの成果が表れ、「職員皆チームワークで助け合ってください。人の良い面を見るように！」との管理者の言葉や「1日ひとほめ」を掲げる等に職員の心意気が表れ、温かい家庭的な雰囲気を一層深めたホームである。また、地域の一員として、その役目を十二分に発揮するなど、地域の中での確固たる基盤が作られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「明るく、楽しく、優しく」は全ての人との関係作りの基本として毎日の朝礼にて唱和している。また、運営推進会議では、理念の説明をしている。</p>	<p>1号館は「共に生きる、明るく、楽しく、優しく」、2号館は「明るく、楽しく、優しく」を理念として、九州ナンバー1のグループホームを目指すことを26年度のスローガンとする等志向を高く持ち、機能訓練の強化、アクティビティの実施、食事を楽しむ支援を目標として四半期毎の評価及び進捗状況を精査しながら具体的に実践している。入居者の平均介護度4という状況と言う現状にあるが、職員の明るさや寄り添いの姿勢が和やかな生活として生かされており、一層の温もりのあるホームが形成されている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事(どんどや、校区敬老会、木倉祭り)に参加し自治会に加入。組長として回覧配布、区役に参加、連絡調整を担っている。</p>	<p>地域の一員として精力的に地域住民との交流に取り組んでおり、自治会活動への参加の他、リサイクル当番や自然災害の危険区域の中にあり説明会等に参加している。公民館活動及び木倉祭り・校区の敬老会時には企画・参画し、地域の縁がわ活動として多くの地域住民との茶話会や園児との交流、ボランティアの訪問も多く、老人会からの草とりや民生委員も清掃活動に訪問される等地域を支え・支えられる関係が築かれている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>キャラバンメート「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」の養成講座を3名受け、地域・職域・学校などで認知症サポーターの育成に取り組むつもりである。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容については、家族会議の際に運営推進会議の内容を説明している。また、苦情についても説明を行い色々な意見や助言を頂き実行している。	定例化した運営推進会議では法人として地域の目を通じてサービスに反映させようという意識を高めて開催しており、特養・在宅・小規模多機能・デイサービス等からも参加しながら情報を発信している。グループホームとしてはパワーポイントを用いた現状報告やホームでの課題を議題として質疑応答が行われている。また、ランチミーティングを取り入れ、食を通して職員の関わりを確認してもらう機会としたり、気軽に話し合える環境とし、雑談の中からも有意義な意見等を参考にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故発生時の報告に際しても、法人施設長に同行してもらい、報告書と事故現場の写真などの資料を提出し、説明を行い、行政からの意見や指導を受ける改善を行い、完了の報告まで行っている。	運営推進会議には毎回参加が得られており、その中で状況を発信し、役場には些細な事故でも連絡し、行政の立場からの意見や指導を受けながらケアに反映させている。町主催の健康いきいきフェスタには実行委員長や進行役としてタイアップし備品なども協力している。施設長は社協の理事として地域福祉に携わり、高齢者福祉の向上に行政と連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドからの転落の恐れがある方に対しては、畳みに寝ていただくなど拘束の無いケアを実施している。	身体拘束の弊害を全員が正しく認識しており、センサーマットは利用せず、車椅子も移動手段と認識している。職員の五感を生かす気づきあるケアや、転倒の危険性の高い場合には畳での生活等工夫しながら拘束の無いケアを実践している。入居者個々の外出傾向を把握し、所在確認の徹底を徹底し、安全を確保しながら天気の良い日には自由に外に出られる等抑圧感の無い自由な環境が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてスタッフが介護の基本と、勉強会を実施し、理解しながら尊厳のあるケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、当グループホームの社会福祉に運営推進会議、勉強会にて、内部研修を行っている。また、11月に社会福祉協議会主催の成年後見制度に、ホーム長、主任が参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族へ十分な説明を行い納得された上で契約書を作成、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の見える場所に移動し書きやすいように工夫した。家族が来られた際には、会話の時間を設け何でも言いやすいような雰囲気を持っていき、意見が出やすいようにしている。	入居者と職員との関係は良好であり、日々のかかわりの中で要望等を引き出している。家族には意見箱の他、訪問時により聞き取りし、出された要望等は申し送りノートにより全員が共有し、ケアサービスに反映させている。家族会や運営推進会議も問題提起の場や家族同士の交流の機会としている。家族には何事も包み隠さない事を徹底しており、家族からの信頼も高いホームである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会では、カフェスタイルにし、リラックスして良い意見が沢山出るような工夫をしている。また、他者の意見に対しては、批判をするようなことのないように心掛けている。勉強会の度、報告書を提出し代表者、管理者に回覧している。	ホーム長は日々職員とのコミュニケーションを図り、毎日3時に個々の状況を話し合ったり、主任を中心にリーダー研修での課題を話し合っている。全職員が意見を出しやすい様BS法を用いたり、カフェスタイルで開催している。職員はチャレンジ精神や改善意識を高く持ち、職員の家庭の都合に合わせた勤務体制等働きやすい環境が作られている。又、毎週所属長会議を開催し、各部署の話し合いも行われ、ホームでの接遇マナーへの取り組みが、法人として接遇マナー委員会の設置に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内における人事評価制度を用いて処遇改善等を行っている。そのなかでカイゼン活動を実施しており2年連続の賞をいただき、今年度は全体のなかで、「トップ賞」という最高の賞を頂き、更なる向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	誰でもが研修に参加したいと思うように働きかけ、積極性のある職員には、大きな大会での発表を行うなど、なかなかできない体験を味わうことができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修では、今年度、初めて地域の老健施設の勉強会に参加させて頂きました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思伝達ができる方に対しては、希望や要望を聞き、できるだけ対応を行っている。意思伝達ができない方に対しては、家族の情報のもと対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、家族にケアマネと事前に訪問し、困っていることを、不安、要望など十分に傾聴し、安心していただける対応を行い信頼ある関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望を傾聴し、今、必要なサービスを見極め、検討し対応に努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行により徐々に機能が低下していく中で野菜の皮むきや食器の片付けなど職員と共に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	平成24年度より、利用者の健康診断の結果を家族と面談するようにした。利用者の事を家族と共に考えることにより、絆も深まっていったようにおもしろ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣や初市に参加、地域での季節行事に出向いたり、地域の人たちが訪ねてこられたりと交流を支援している。今後ふるさと訪問も計画している。	入居者の生活歴等アセスメントで得た情報を生かしながら支援している。家族や親類・友人等の訪問や、入院中の兄弟のお見舞いに出向く方や故郷訪問、行きつけの美容院に出かけたり、馴染みの美容院からの訪問の他、兄弟での入居や、1号館・2号館に分かれて入居されているご夫婦等これまでの関係が途切れないよう支援している。また、初詣には入居者の馴染みの神社に詣で、隣近所・幼馴染み等もおられる。アクティビティとして様々な慣習や趣味等も継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人にならないように職員が中に入り友達作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族には何でも相談していただけるようにとお伝えしている。よく電話での相談ごとや、自宅にうかがったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行と共に思いや、希望の把握は困難であるが共に生活する中での会話の中から気づき、思いを見つけ、本人本位の支援に努める。	職員は高齢化・重度化傾向にある中において一人ひとりに寄り添い、積極的な声かけにより思い等を引き出している。意思疎通や発語困難な状況に表情・行動等により推察したり、家族から情報を得ている。「息子と一緒に暮らしたい」との思いに在宅復帰を実現させたり、「家族に会いたい」との希望にホーム側からコンタクトを取り、数十年ぶりの再会を話す等、日々の職員の関わりが思いを実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中から一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方」を把握し、他事業所との連携を取りながら把握に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日常の生活上で本人の表情や心身の状態の把握に努め、有する力を発揮できるケアを目指したい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎朝の申し送り、随時のミーティング、家族の面会時に話し合いを行い意向の添ったプランを作成している。	家族の訪問時の話し合いや毎月のカンファレンス・モニタリングやひやりはっと事例による話し合い等を重ねている。心身の状態変化に応じ随時の見直しや半年毎の見直し、及び介護認定更新時にはアセスメントから取り直し、新たなプランが作成されている。自立に向けたプランや楽しい生活等理念も反映させた個別性のあるプランが作成されている。	本人や家族の思いをプランに反映させた個別的なプランである。職員は日々観察力を生かしながら話し合う機会が持たれている。プランの中に一部追加や削除をされることを検討いただきたい。更に職員の気づきや観察結果が生かされるものと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤帯で個別に記録を記入し情報の共有を行い介護計画の見直しに役立てている。また、職員の申し送りノートを用い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下機能の低下が見られムセが見られ方に対しては、ミキサー食やキザミ食を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会ボランティア活動時の交流、町内の買い物のが外出、同地区の理容師による散髪を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の定期的な回診、必要時の受診、他の専門医の同意を得て職員が受診支援している。	協力医療機関との連携が図られ往診や受診での対応や専門医への受診等、入居者・家族の希望に応じた受診体制を図っている。又、受診をホームで支援し、できる限り看護職での付き添いや家族の同行等で対応している。入居者の様子観察や小まめな健康チェックで異常の早期発見や早めの受診に繋げ、主治医への相談や往診は入居者のみならず職員の安心となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変に気付いた場合は、看護職員に状態を報告し、適切な介護よ愛に繋げている。また、本館の看護師との協力体制も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	空所期間が1か月と規定されており、安心して治療ができるよう情報交換を行い早期退院に向けて、主治医、家族、施設による話し合いや相談を行い連携に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に応じ、家族の希望に添いながら、主治医との3者で検討を重ね、事業所で出来ることを家族に説明し方針を共有している。看取りを利用者がいるが、急変時には家族へ連絡し相談の上、対応を行っている。	入居時に重度化や看取りに関してホームで出来る事を記した指針を説明している。体調が変化した際は、主治医よりの説明や家族の意向を確認しながら方向性を決めており、希望によっては主治医や家族・法人看護師等の協力を得ながらチームで最期まで支援している。繰り返しの話し合いで家族に後悔が残らない支援に努め、職員の勉強会の強化や連絡体制を共有し実施された支援に、家族の感謝の言葉が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリハットの発生時につき、再発防止に向けた対応策を検討している。また、勉強会では、急変事対応の研修を行い実践力を全員で身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体の訓練や、年2回の避難訓練を実施し、訓練後の反省や改善に努めている。しかし、まだ地域との協力体制については、具体的に決めておらず、今後の課題である。	年2回の避難訓練を地域や設備業者と共に実施し、その他にも法人と合同の訓練が消防署の指導の下に行われる等、法人と連携を図りながら避難誘導の体制を整えている。又、地域のハザードマップの確認や土木事務所による危険区域の説明会に参加し、区長の協力で地域の連絡表を掲示している。非常時のマニュアルの整備や、今年度の台風接近時には備蓄の見直しをする等有事の際に対応できる体制の強化を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴や、人格を尊重した言葉掛けや、プライバシーに配慮、一人ひとりに会った対応、判断、返答能力に応じた会話に努めている。	一人ひとりに反応のある呼称で呼びかけ、入居者目線や一呼吸置いた会話を心掛け、個々の誇りを損ねない対応に努めている。又、プライバシーの確保や羞恥心に配慮し、排泄時等のあからさまな声かけに注意している。ホームの個別支援やおもてなしの心を持った取り組みは法人の接遇マナー委員会の設立に繋がり、“一日ひとぼめ”を現在のテーマに会話の大切さや言葉づかいについて検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の伝達が困難な利用者に対しては、本人の行動を把握したり、会話や関わりを通し、思いに添い、納得していただけるような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、心身の状態を察知し、本人の希望を大切に自分の自由な時間を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コーデネートに配慮した支援を行っている。傷みが出やすい素材については、手洗いをを行うにより劣化を防いでいる。散は、地域の訪問散髪を利用し、身だしなみの支援をしている。最近では、若い職員がネイルアートやお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度より、外出や行事の際には、手作りの料理を作っている。その際に、利用者と一緒に作ったりしている。	入居者の好みを取り入れ各ユニットで献立や調理・買い出しに出かけ、時には畑で育てた野菜等が利用されている。入居者は野菜の皮むきや下ごしらえ・食器拭き等に関わり、食事時間は職員と一緒に食卓を囲んでいる。個々の状態に合わせてろみやきざみ食等で対応しており、恵方巻などの行事食を取り入れている。又、天気の良い日は庭のテーブルでの食事やこども園の子供たちとの食事等楽しみの支援に取り組み、系列温泉施設やファミリーレストラン等の外食に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に調理し、肉や魚、野菜、果物など偏らないように、栄養のバランスを考えて調理をしている。また、その人に合った食事形態を考え提供している。嚥下状態が悪い方に対しては、トロミ剤の量から考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じての磨き直しや、毎晩義歯洗浄液につける支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、尿意のない利用者の方については、さりげない個別対応を行っている。	トイレまでの移動を生活リハビリの一つと捉え、手引きや二人介助でホーム内は車椅子を使用せずトイレに誘導している。又、個々の排泄状況を職員間で共有しケアの統一に繋げており、下着や排泄用品の種類を検討したり昼夜で使い分けている。夜間はポータブルの使用もあり清潔を徹底し、昼間はカバーによりプライバシーや環境に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一汁三菜を基本に野菜は毎日使い、水分補給(乳製品を含む)を確実に摂取している。排泄や入浴時に腹部マッサージを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、午後からとなっているが、必要に応じて午前中に入浴することもあり、本人の希望があれば、毎日入浴してもらっている。	入居者の体調に合わせて、毎日入られたり二人での入浴等希望に応じ支援している。拒否に対しては時間を置いたり他の入居者からの声かけで対応したり、入浴時の抵抗については本人の意思を尊重し職員の話術でスムーズな入浴となった事例等を共有している。温泉を利用しており、時には花びらを浮かべたり柚子や菖蒲を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、軽い運動やレクリエーションを実施し、夜間は、ゆっくり寝ていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに処方箋を綴じ、用法容量を把握している。症状の変化時は看護師により主治医への報告を行い、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや台所作業などの役割を持っていただき余暇活動の実施で活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の方で姉妹で入所しておられ、自分たちが生まれた地域に行ってみたいとの希望があったのでお連れした。	法人施設周りの季節の樹木や花々に囲まれ、入居者は自由に戸外での生活を楽しんでいる。季節や天候に合わせて外のテーブルにテントを張り談話したり、畑の草取り・梅の収穫等はホームに居ながらできる楽しみとなっている。又、デイサービスと合同での外出や紅葉見物・夜間の蛍やイルミネーション見物等多岐に亘った外出の機会を持っている。こども園の運動会に参加したり、園児との動植物園への外出時には入居者の優しい笑顔が見られ、家族の協力での外出等も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1人は、お金の使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があればでんわをしたり、とり次いだり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、廊下など優しい色合いの壁掛けや、花などを置いてある。	玄関やホーム内には季節の花が活けられ、壁面の入居者の写真も今年は掲示方法に工夫を凝らしている。対面式の台所からの食事準備の音や匂いが五感の刺激となり、ソファで寛ぎことわざゲームをしたり、和室で横になる等入居者と職員の穏やかな日常が垣間見れる。グランドゴルフ場から聞こえる地域住民の声なども環境の一つとなり、ホーム内は温湿度管理や小まめな清掃や手入れが行き届き、経年を感じさせない快適な場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	壁などに、優しい色合いの装飾品を置くことで落ち着くような、空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた家具を置くことにより心地よく、安心できる空間にしていかなければならないと思っている。新しい家具やタンスを持ち込まれるご家族が多い。せつかくの個室なので工夫をこらし、温かみのある空間にしていかなければならないと思っている。	洗面台やクローゼットが付けられた居室にタンスや位牌・家族写真等を持ち込み、家族の思いもこもった部屋作りがされている。居室前の花壇に家族と共に花を植えたり、部屋でのテレビ観戦や、「私の部屋に寄んなっせ」と入居者同士で部屋に招き入れる等、自分の部屋として使用されている。自らレイアウトされる方や居室担当と整理整頓したりと、本人が使いやすく落ち着く居室となっている。	掃き出し窓で開放的な居室となっており、非常時の避難通路としての役割にも期待がもたれる。通路の確保などについては職員間で検討される事に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目標に一人ひとりができることを把握し、食事に片付け、食器洗い、掃除など支援目標を設定し自立に向けた行動計画を実施している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に生きる、「明るく、楽しく、優しく」は全ての人との関係作りの基本として毎日の朝礼にて唱和している。また、運営推進会議では、理念の説明をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(どんどや、校区敬老会、木倉祭り)に参加し自治会に加入。組長として回覧配布、区役に参加、連絡調整を担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメート「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」の養成講座を3名受け、地域・職域・学校などで認知症サポーターの育成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容については、家族会議の際に運営推進会議の内容を説明している。また、苦情についても説明を行い、色々な意見や助言を頂き実行している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故発生時の報告に際しても、法人施設長に同行してもらい、報告書と事故現場の写真などの資料を提出し、説明を行い、行政からの意見や指導を受け改善を行い、完了の報告まで行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドからの転落の恐れがある方に対しては、畳に寝ていただくなど、見守りを重視し、拘束の無いケアを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてスタッフが介護の基本と、勉強会を実施し、理解しながら尊厳のあるケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、当グループホームの運営推進会議、勉強会にて、内部研修を行っている。また、3月に社会福祉協議会主催の成年後見制度に、ホーム長、主任が参加する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に家族へ十分な説明を行い納得された上で契約書を作成、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の見える場所に移動し書きやすいように工夫した。家族が来られた際には、会話の時間を設け何でも言いやすいような雰囲気を持っていき、意見が出やすいようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会では、カフェスタイルにし、リラックスして良い意見が沢山でるような工夫をしている。また、他者の意見に対しては、批判をするようなことのないように心掛けている。勉強会の度、報告書を提出し代表者、管理者に回覧している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内における人事評価制度を用いて処遇改善等を行っている。そのなかでカイゼン活動を実施しており、職員の気づきを勉強会で検討し、実施して更なる向上を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	誰でもが研修に参加したいと思うように働きかけ、積極性のある職員には、認知症グループホーム大会での発表を行うなど、なかなかできない体験を味わうことができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム上益城部会などの研修に随時参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思伝達ができる方に対しては、希望や要望を聞き、できるだけ対応を行っている。意思伝達ができない方に対しては、日常の様子や家族の情報のもと判断しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、家族にケアマネと事前に訪問し、困っていることや、不安、要望など十分に傾聴し、安心していただける対応を行い信頼ある関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望を傾聴し、今、必要なサービスを見極め、検討し対応に努めた		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行により徐々に機能が低下していく中で野菜の皮むきや食器の片付けなど職員と共に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来年度は、利用者の健康診断の結果を家族と面談するようにした。利用者の事を家族と共に考えることにより、絆も深まっていったようにおもえる。随時、ご家族の相談には、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣や初市に参加、地域での季節行事に出向いたり、地域の人たちが訪ねてこられたりと交流を支援している。今後ふるさと訪問も計画している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一人にならないように職員が中に入り友達作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族には何でも相談していただけるようにとお伝えしている。よく電話での相談ことや、自宅にうかがったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行と共に思いや、希望の把握は困難であるが共に生活する中での会話の中から気づき、思いを見つけ、本人本位の支援に努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との会話の中から一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方」を把握し、他事業所との連携を取りながら把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日常の生活上で本人の表情や心身の状態」の把握に努め、有する力を発揮できるケアを目指したい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎朝の申し送り、随時のミーティング、家族の面会時に話し合いを行い意向の添ったプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤帯で個別に記録を記入し情報の共有を行い介護計画の見直しに役立てている。また、職員の申し送りノートを用い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下機能の低下が見られムセが見られ方に対しては、キザミ食を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会ボランティア活動時の交流、町内の買い物のが外出、同地区の理容師による散髪を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力病院の定期的な回診、必要時の受診、他の専門医の同意を得て職員が受診支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変に気付いた場合は、看護職員に状態を報告し、適切な介護や受診に繋げている。また、本館の看護師との協力体制も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	空所期間が1か月と規定されており、安心して治療ができるよう情報交換を行い早期退院に向けて、主治医、家族、施設による話し合いや相談を行い連携に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に応じ、家族の希望に添いながら、主治医との3者で検討を重ね、事業所で出来ることを家族に説明し方針を共有している。看取りを利用者があるが、急変時には家族へ連絡し相談の上、対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリ・ハットの発生時につき、再発防止に向けた対応策を検討している。また、勉強会では、急変事対応の研修を行い実践力を全員で身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体の訓練や、年2回の避難訓練を実施し、訓練後の反省や改善に努めている。区長さんを始め地域の皆様にもボランティアとして参加していただいている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴や、人格を尊重した言葉掛けや、プライバシーに配慮、一人ひとりに合った対応、判断、返答能力に応じた会話に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の伝達が困難な利用者に対しては、本人の行動を把握したり、会話や関わりを通し、思いに添い、納得していただけるような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、心身の状態を察知し、本人の希望を大切に自分の自由な時間を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コーディネートに配慮した支援を行っている。傷みが出やすい素材については、手洗いをを行うにより劣化を防いでいる。散髪は、地域の訪問散髪を利用し、身だしなみの支援をしている。最近では、若い職員がネイルアートやお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外出や行事の際には、手作りの料理を作っている。その際に、利用者にお手伝いしてもらいながら、一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に調理し、肉や魚、野菜、果物など偏らないように、栄養のバランスを考えて調理をしている。また、その人に合った食事形態を考え提供している。嚥下状態が悪い方に対しては、トロミ剤の量から考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じての磨き直しや、毎晩義歯洗浄液につける支援も行っている。訪問歯科より、磨き方などのアドバイスをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、尿意のない利用者の方については、さりげない個別対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一汁三菜を基本に野菜は毎日使い、水分補給(ヨーグルトを含む)を確実に摂取している。排泄や入浴時に腹部マッサージを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、午後からとなっているが、必要に応じて午前中に入浴することもあり、本人の希望があれば、毎日入浴してもらうことも出来る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、軽い運動やレクリエーションを実施し、夜間は、ゆっくり寝ていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに処方箋を綴じ、用法容量を把握している。症状の変化時は看護師により主治医への報告を行い、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや台所作業など、ご利用者それぞれに得意なものを活かし、役割を持っていただき余暇活動を実施することで、活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	継続して、自分たちが生まれた地域に行ってみたいとの希望があったので、気候のいい時を見計らって実施する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1人は、お金の使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望があれば電話をしたり、取り次いだり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、廊下など優しい色合いの壁掛けや、花などを置いてある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	壁などに、優しい色合いの装飾品を置くことで落ち着くような、空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具を置くことにより心地よく、安心できる空間にしていかなければならないと思っている。新しい家具やタンスを持ち込まれるご家族が多い。せつかくの個室なので工夫をこらし、温かみのある空間にしていかなければならないと思っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を目標に一人ひとりができることを把握し、食事に片付け、食器洗い、掃除、歩行訓練など支援目標を設定し自立に向けた行動計画を実施している。		